

2 神戸市立看護短期大学

本学は、三宮からポートライナーで約10分、人工島ポートアイランドのほぼ中心部に位置し、また神戸市立中央市民病院にも隣接しており、修学には最適な環境の中に設置されている。

しかしながら、今回の震災では、この埋め立て地が液状化現象により泥沼化し、大幅な地盤沈下を引き起こしライフラインは長期間寸断された。また、唯一の公共交通機関であるポートライナーも高架や神戸大橋の損傷のため、7月末の全面開通までの6か月間は代替バスによる通学・通勤に長時間を要した。

公立短期大学協会、各短期大学をはじめ、全国から寄せられた激励、義援金、教科書図書館の利用許可等の支援を頂いたことが、学生、教職員の大きな支えになった。

(1)短期大学の被害状況

ア 学生の被害状況

在学生 407名のうち 死亡 1名、重傷 1名
住居の全・半壊（焼） 60名（自宅 9名、下宿 51名）

イ 教職員の被害状況

教職員 53名のうち 住居の全・半壊（焼） 10名

ウ 学校施設の被害

- (ア) 学舎周辺の給排水管が地盤沈下による損傷
- (イ) 運動場・テニスコートの亀裂及び液状化現象による泥の堆積のため使用不可
- (ウ) 書棚・書架・実験器具等の備品類の倒壊による損傷
- (エ) その他 地盤沈下により、本館と体育館棟間の地中の電話回線、非常放送設備・火災報知システム回線に損傷

(2)授業に対する対策

ア 6年度 後期授業の中止

6年度後期の授業について、1月17日以降、学校における授業は行えず、レポート等の提出により、卒業判定及び進級判定を行った。

また、被災により教科書を失った学生には、関係団体等から寄贈された教科書を送付した。

イ 7年度 前期授業時間の変更

7年度の授業は、4月10日から再開したが、交通事情等を考慮し、前期は、始業時間を40分遅らせて午前9時40分から、授業時間を10分短縮して80分としている。

学生は、ポートライナー代替バスの交通渋滞と待ち時間の長さ、自衛手段として、徒歩での通学は勿論のこと、自転車やバイクでの通学が急激に増えたため、急遽、自転車置場を設置するなどした。

(3)学生に対する対策

ア 授業料等の減免

在学生及び平成7年度受験生のうち、震災により、①住居が全・半壊又は全・半壊した者 ②主たる生計者の死亡等により収入が著しく減少した者を対象として授業料条例の改正を行い、授業料、入学選抜料、入学金の減免措置をとった。

(減免)	授業料	172名
	入学選抜料	95名
	入学金	10名

イ 下宿の確保

下宿を失った学生と新入生の下宿の確保が必要となったが、阪神間の住宅の被害は、想像したよりも大きく、市広報紙による募集やマスコミを通じての依頼、卒業生の下宿の継続使用、不動産業者への協力要請等種々の努力を行ったが、下宿の確保は極めて困難であった。

在学生の下宿確保が精一杯で、新入生には少数の物件しか紹介出来なかった。

下宿の全・半壊（焼） 51名

(4)教職員の活動

本学の教員の多数は、看護婦の資格があり、あるものは震災当日から自宅が全壊にも係わらず壊れた西市民病院へ駆けつけ患者救出に協力をしたり、あるものは自宅近くの避難所で、住民の健康管理の手伝いを行っていたが、出勤可能な看護系教員は、中央市民病院と東灘診療所への応援体制を組み臨床現場の看護婦として活躍した。

ア 中央市民病院への応援

救援物資の運搬（事務職員）7日間

救急外来・病棟（三交代勤務）への応援 1月27日から2月10日

看護系教員 延べ 88人

イ 東灘診療所への応援

1月27日から2月8日まで

看護系教員 延べ 26人

診療所内での応援活動だけでなく、医師と避難所へも出向いた。

ウ 学生の安否確認

電話回線が寸断された状態が続くなか、教員による学生の安否確認は、震災当日から連日、早朝から深夜まで続けられた。

特に、下宿学生の安否確認を最優先し、学生の郷里との連絡や学生の連絡網の利用等により確認を急いだ。不幸にも、下宿学生1名の死亡と、1名の負傷が判明した。

(5)入学試験の実施

平成7年度入学試験は、2月18日（土）に第1看護学科、2月20日（月）に第2看護学科の一般入試をポートアイランド内の本学で実施した。

全ての公共交通機関がストップしている中で、交通機関の復旧予定を勘案しながら本学での実施を決めた。

交通事情を考慮して、開始時間を例年より1時間30分遅らせて午前11時から、休憩時間を10分短縮して20分間、昼食時間を20分短縮して40分とするなど受験生の帰宅にも配慮した。

水道の仮復旧が入試日の2日前、ガスの復旧が前日になり、トイレの使用や、暖房にも配慮するため、簡易トイレや使い捨てカイロ等の準備もしながら、何とか無事に試験を実施することが出来た。

受験倍率も幸い例年と遜色がない水準であった。

遅刻者も殆ど無かったのは、教職員が力を合わせ、事前の準備に今まで以上に時間と労力を費やした事と、在学生のボランティア延べ63名の協力が大きな要因である。

学生ボランティアは、案内看板造りや、当日の朝、寒さ厳しいなか、神戸税関前から学校までの約 2.5kmの間の要所要所に立ち、また、代替バス乗降場所に案内看板を掲げ受験生の案内に協力した。このときばかりは、学生が力強く、頼もしく思えた。

※一般入試の状況

	募集人員	応募者数	受験者数	合格者数	倍 率	入学者数
第1看護学科	70	870	686	101	6.8	68
第2看護学科	50	188	151	55	2.7	50

(6) 現在の支援活動状況

ア ボランティア活動

阪神大震災で被災し、仮設住宅で生活している人たちを、健康面から支援しようと、看護短期大学生の学生・教職員ボランティアが住民に対する健康チェックを行っている。

とくに、島内の仮設住宅は、早期に入居が決まった高齢者等が多く、健康面での不安を抱えた市民が多くいることが考えられる。

このため、土・日の授業の無い日に、または時間外に看護短期大学の特性を生かしたボランティア活動を行い、少しでも被災者の役に立てることが出来ればと考えている。

(ア) 対象 ポートアイランド内 第1仮設住宅・第2仮設住宅 800戸

※対象の拡大 市民病院南仮設住宅 34戸

(イ) 内容 健康チェック 血圧、体重、血糖、尿糖、尿蛋白など

その他の活動 健康相談、体力測定、健康体操、心理的な支援
季節の行事等

6月24日・25日 健康チェック

7月 1日 健康チェック

季節の行事 七夕さま

(住民同志の交流を図る場とする)

※①健康チェック以来数件の個別訪問や電話相談を続けている。

②8月中に教職員による全戸訪問を実施し、健康ニーズを把握する。

8月26日 学生による企画で、夜店やカラオケ大会を実施するとともに健康相談を実施予定。

(ウ) 活動の主旨

仮設住宅住民の生活を健康の側面から支援する。

健康は生活の自立のための基盤であり、健康のために行う行動は、「セルフケア」である。震災以来、従来の健康習慣が維持しにくく、健康障害がおこる可能性が考えられる。住民の健康上の問題を解決していくことは、生きる意欲を支え生活の自立への希望となる。

そこで、これらの人々に対して、セルフケアの動機づけやセルフケア行動を支援することを活動のねらいとする。

健康チェックの目的

- ・住民が健康チェックをとおして、セルフケアを考える。
- ・住民が健康チェックをとおして、現在行っているセルフケアの評価を行う。
- ・住民が健康チェックをとおして、セルフケアを阻害している要因を見つける。
- ・住民が健康チェックをとおして、セルフケア行動がとれる。

(エ) 住民の反応

健康への関心は高く、健康チェックの継続を希望する声が多い。また、若い学生達との交流を楽しみにしている住民もいる。

イ 仮設住宅用地の提供

4,800㎡の運動場、決して広くはないが、少しでも被災者のために役立てるため仮設住宅用地(34戸)として半分の2,400㎡を提供した。

短期大学としては、残されたグラウンドの利用方法を工夫して、体育の授業をすすめていく。

ウ 卒業生に対する就職指導

これまでは、卒業生の多くが市立中央・西市民病院と西神戸医療センターに就職していたが、今回の震災で、西市民病院が損壊した影響により今年度の採用内定者は、全員採用延期となった。来年4月には全員が採用される見込みだが、大部分の者は、現在も採用待機中であり、卒業生のみならず在校生にも大きな動揺を与えている。新卒者にとって1年間のブランクは専門職としての成長に影響すると思われる。

このため、アルバイト先の紹介、近隣他都市などの公・私立病院への就職指導を続けている。また、次年度卒業予定者のための進路指導や職場開拓の必要性が生じてきている。